

学校図書館支援センター通信 NO.127

11月号
平成30年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

学校図書館の活用方法を学ぶ「授業力アップ研修」 小学校の研修会の様子を紹介します!

10月号では、中学校の研修会の様子を紹介しました。今月号は、市川市立塩焼小学校と市川市立大洲小学校で行われた小学校の先生方の研修会の様子をお知らせします。

【10月11日（木）市川市立塩焼小学校 授業者 永瀬 悟先生】



6年生 社会科「町人の文化とあたらしい学問」

本単元は、「浮世絵」を題材として、江戸後期の町人の文化と人々の暮らしについて迫る学習でした。授業に入る前に、浮世絵が描かれている図書資料を学校司書の協力を得て集めました。そして、テーマごとにまとめられた「浮世絵」が描かれた図書資料を活用して、子供たちは「江戸後期の文化や暮らし」について調べていきました。普段の授業の中で、資料の見方をしっかりと教えられているので、「浮世絵」からわかったことや考えたこと、疑問などをわかりやすくまとめていました。



永瀬先生は、図書資料を活用する時、どんな資料が必要か、児童の実態に合っているか、考えるそうです。そして調べて終わりではなく、集めた情報を通して、社会的な見方・考え方を養っていきけるような授業づくりを心がけているという話を伺いました。今回の研修では、社会科の授業作りの基本を学ぶこともできました。

【4年目教諭の感想】

- ・今までは、社会科や総合的な学習の時間の調べ学習では、ただ本を与えるだけになってしまったので、授業者側がきちんと意図をもって本を与えなければと思いました。
- ・図書館に行って本に触れるだけでなく、調べ方やまとめ方、資料の選び方などもしっかりと考えないといけないことを改めて痛感しました。

【10月23日（火）市川市立大洲小学校 授業者 吉岡 洋子先生】



5年生 特別活動「気象クイズの本を作ろう」

子供たちに幅広い分野の図書に親しませることをねらいとした授業が行われました。幅広い分野に目を向けてもらうために、理科「台風と情報①②」の学習内容と関連させ、4類の図書を活用していました。

昨年度の司書教諭研修会で紹介された「味見読書※」を「味見調べ」という形に変えて、複数の図書から少しずつ気象クイズに必要な情報を子供たちが集めていきました。1冊あたり5分の時間をとりながら、子供たちは、調べた情報を付箋に書いていきました。この方法は、多くの図書に触れることができます。新しい図書との出会いは、子供たちの読書の幅を広げることにつながります。

協議会では、「様々な図書に目を向けさせるためには、環境を作ることが大切である」という話があり、低学年では、継続的な読み聞かせも効果的だという話を伺いました。

【4年目教諭の感想】

- ・図書館活用の方法だけではなく、一人一人に対しての支援の仕方など、「子供たちのために」を第一に考えた授業に感動しました。
- ・図書館を活用した授業を計画的に行っていくことが大切だと思いました。
- ・子供たちが調べたり、読んだりしなければならぬ必然性を考えていく必要があると感じました。

※「味見読書」とは

読書の幅を広げるための一つの方法です。複数の本をグループで回しながら、時間を区切って、少しずつ読んでいきます。普段手に入ることがない本と出会える機会となります。



高谷中学校図書委員会では、9月11日(火)に信篤小学校にて読み聞かせ交流を行いました。

高谷中学校図書委員が信篤小学校へ赴き、小学1・2年生の各クラスで読み聞かせを行うというものです。人前に立って本の読み聞かせをすることに慣れていない中学生たちは、夏休み前から自分たちの選んだ本を読み込み、一生懸命練習を重ね、緊張と不安、声量と闘いながら本番に臨みました。

実際に読み聞かせをした中学生たちは、「緊張しただけ楽しかった!」「またやりたい!」「自分が小学生の時に何気なく聞いていた読み聞かせも、たくさん練習してくれていたんだなと思った。」など感想を述べていました。小学生たちの楽しむ姿も伺え、有意義な取り組みになったと感じています。

(市川市立高谷中学校 学校司書 太田和 亜弓)

学校図書館活用授業時間数調査(前期)の報告

今年度前期(4月~9月分)の学校図書館活用授業時間数調査の結果をお知らせします。小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校の合計が、17,238時間でした。国語科、総合的な学習の時間を中心に、幅広く活用されています。音楽科での活用は、昨年度の前期と比べると、今年度は22時間も増加しました。また、今年度より、小学校で教科化された道徳の時間での活用も前年度よりも増えています。中学校では、美術科、家庭科での活用が定着してきています。

また、図書貸借システム(ネットワーク便)の利用も積極的に進められ、10月31日(水)現在 相互貸借冊数30,682冊です。昨年度の同時期と比べて約1,300冊多くなっています。

後期も引き続き、学校図書館の有効な活用をお願いします。



教科等	活用時間数
国語	10,545
社会	1,091
算数・数学	16
理科・生活科	1,002
音楽	22
図工・美術	628
体育・保健	0
家庭科・技術科	201
外国語	82
総合	3,309
道徳	46
特別活動	146
その他	150
合計	17,238

【文部科学省委託事業調査研究 協力校 市川市立第七中学校の様子】

市川市立第七中学校の学校図書館活用の授業を参観して来ました。第七中学校の学校図書館は、2学級が同時展開できるスペースがあり、参観した日も2年生の社会科『江戸時代の産業・政治改革・文化 ~江戸時代の人々の「働き方」を調べよう~』と、3年生の国語科『三大和歌集 現代に蘇らそう!』の授業が同時に行われていました。このように、2学級が同時に展開することは、日常よくある光景だそうです。



生徒達は、自分のテーマに合わせて、書架から必要な図書を探して情報カードにまとめていました。図書資料では足りない情報は、調べ学習用のパソコンを利用して、インターネットの情報を集めていました。「どうして〇〇なのだろうか」等、子供たち一人一人が調べるテーマをしっかりと把握しており、主体的に学習に臨む姿が見られました。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター(市川市教育センター)
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

